

財政運営について



小野寺 尚武 議員



**質問**…市の財政状況を比べる場合、私は標準財政規模を活用し比較していくべきだろうと提案します。これが一番財政の分析には活用できるのではないかと考えています。令和5年度が約192億円、令和4年度が約191億円、令和3年度が約196億円、令和2年度が約191億円これは増減がありますが地方公共団体が標準的な状態で通常取

入されるであろう経常的一般財源の規模を示すものであり標準税収入に普通交付税と臨時財政対策債発行可能額を加算した額です。本市の財政分析に活用することで、良くなっているか悪くなっているか、増えたか減ったか、この標準財政規模をもっと活用していくべきであろうと思います。

**答弁**…確かに標準財政規模はそ

の自治体の年間の標準的な収入ということの一つの予算編成の目安となります。それから指数を算出する重要な数値でありますのでこれらの増減は財政運営に大きく関わってくるところで、今後は、本市の年度ごとの財政運営比較として使っていきたいと考えます。

一般質問



中川 雅之 議員



水道事業(AI技術を活用した事業の推進)について

**質問**…AI技術を活用した水道事業の取組についての本市の考えを伺います。

**答弁**…県内では足利市をはじめ、宇都宮市においても様々なAI解析技術手法による管路劣化予測診断を取り入れている事業体があります。これらは、過去の漏水事故履歴や地形、土壤等のビッグデータ、管路データを取り込むことにより、AIが管路

の劣化診断を行い、水道管破損リスクの高い箇所を選別するものであります。これにより漏水調査箇所の絞り込みや管路更新の優先度を効率的に判断することが出来ます。本市においても

他市の状況を注視しながら、本市に有効なAI技術の導入について検討したいと考えています。  
**質問**…デジタル田園都市国家構想の支援を活用しながら水道事

業の推進を図っている自治体もあります。早急に検討していただきたいと思うが考えを伺います。

**答弁**…来年度のデジ田交付金について、募集をするということ、庁内で今検討を進めている状況でありますので、チャンスがあれば手を挙げていきたいと思っております。